



梅本 龍太くん

Umemoto Ryuta

(和田内区)

うめもと・りゅうた / 甲佐中学校陸上部。第36回熊本甲佐10マイル公認ロードレース大会・中学5^年の部で2位に入賞し、地元競技者賞を獲得。

まだまだ未熟だから、もっとレベルの高い選手になりたい

「練習を重ねるたびに、大会で記録が伸びたり順位が上がったりして結果が出て、自分がレースで通用していくことを実感できることが楽しい」と小さな笑みがこぼれるのは、甲佐中陸上部の梅本龍太くん。

昨年12月開催の第36回熊本甲佐10マイル公認ロードレース大会・中学5^年の部に出場。序盤から先頭集団を引っ張ってレースを作り、16分03秒のタイムで本町出身出場者として大会史上2人目となる2位に入賞し、

「地元競技者賞」も獲得した走りを見せた。

2歳年上の兄が陸上部で走る姿にあこがれて、中学から陸上に取り組み始めた梅本くん。「いいタイムが出なかったころも、自分を信じて全力で走り続ける」ことを積み重ねたことで、2年になって記録が伸び始め、昨秋は郡大会3,000^円位で2位入賞。持ち味のスタミナを生かした粘り強い走りです。

で、県大会へ進んだ。

「毎日毎日、ずっと続けてきたので、走らないと気持ちが悪く落ち着かない」と、1日のメニューとして最低でも8^分は必ず走り、今では「生活の中に、絶対になんかやらないといけない存在」と、陸上について語る梅本くん。日々の練習の成果をかけるレースの醍醐味を「駆け引きが楽しい。最初は前に出て、中盤は落として後ろに付いて、ラストで勝負。ラストで抜いたり突き放したりすると良いレースだったなと思う」と振り返る。そして、「レース中は、周りで応援してくれる人たちの声が入ってくるので、うれしくて励みになる」と笑顔を見せる。

「まだまだ未熟だから、もっとレベルの高い選手になりたい。さらにスタミナを付けて、ラストパートで勝負できるように、競り負けないスピードを身に付けたい」と、視線は前を見据えている梅本くんは、今春から高校に舞台を移す。「体幹をさらきたえる練習にも取り組んで、もっとがんばってインターハイを目指したい」と強い決意を胸に、今日も一心に走る。